

事務事業マネジメントシート(平成30年度実績と平成31年度計画)

令和 2年 2月19日更新

事務事業名	合志農業活カプロジェクト実施事業					<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連	
総合計画体系	政策	6	産業の健康			所属部	産業振興部	課長名	松田 勝
	施策	26	農業の振興			所属課	商工振興課	担当者名	幸恵 知浩
	施策の柱	69	生産基盤の確保と経営力の強化			所属班	農商工連携班	(内線)	5216
予算科目	会計一般	款 7	項 1	目 1	事業連番 11619	根拠法令			
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 30年度で終了 <input type="checkbox"/> 30年度から開始					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 25 ~ 15 年度) <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	同事業は農水省助成事業として採択され、自己資金分として同プロジェクト構成員である(株)自然電力ファーム(1,800千円)、熊本製粉(株)(600千円)と共同で600千円を出資し太陽光発電所を建設、平成25年2月末から発電を開始した。太陽光発電による売電収入を農業施策への還元することを目的として行なっている事業で、今後20年間にわたる売電収入(約42,000千円)の5%と三者への配当(市への配当だけで約2,300千円/年)を原資として、土地改良区への施設補修費補助[守りの農業]や、6次産業化および新商品等の導入支援[攻めの農業]などを実施している。 なお、本プロジェクト実施により固定資産税(24,710千円/20年)、法人税、土地使用料の収入を見込んでいる。
【業務の流れ】	農業施策への還元として、前年度の売電収入実績および三者(自然電力・熊本製粉・市)への配当に基づき、三者で還元先等を協議・決定、各種事業を実施する。 施設管理として、敷地および設備について点検等の結果に基づき、除草や修繕等の調整を行う。
【主な予算費目】	なし
【意見や要望】	特になし

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
①手段(主な活動) 30年度実績(30年度に行った主な活動)(DO)	農業施策への還元事業を協議した。平成30年度は守りの農業として土地改良区事業へ約223万円、攻めの農業として7事業約360万円を実施した。	31年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由	
→ ア: 発電規模	kW	
→ イ: 年間発電量	kWh	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	売電収入を活用した助成を受ける農業者等。	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
		(単位)
		→ ア: 土地改良区
		→ イ: 助成事業
		→ ア: 守りの農業への還元
		→ イ: 攻めの農業への還元
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	土地改良区の負担金が減少する。特産品や加工品の開発、新品種の産地化を図る。	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
		(単位)
		→ ア: 守りの農業への還元
		→ イ: 攻めの農業への還元
*③成果指標設定の理由と31年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
平成27年度から設定(農業への還元が平成27年度開始のため)		全体計画
		~15年度
		0

(2)各指標・総事業費の推移		単位	28年度実績(決算)	29年度実績(決算)	30年度目標(当初予算)	30年度実績(決算)	31年度目標(当初予算)	2年度予定	3年度見込	4年度見込
①活動指標	ア kW		1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	イ kWh		1,149,993	1,146,299	1,100,000	1,171,987	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
②対象指標	ア 団体		2	2	2	2	2	2	2	2
	イ 事業		3	6	5	7	5	5	5	5
③成果指標	ア 千円		2,267	2,264	2,200	2,237	2,200	2,200	2,200	2,200
	イ 千円		3,200	4,721	6,000	3,030	6,000	6,000	6,000	6,000
投資入費量	財源内訳	千円								
	国庫支出金									
	都道府県支出金									
	地方債									
	その他									
	繰入金									
人件費	一般財源	千円								
	(A)事業費計	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
正規職員従事人数	人	5	5	2	4	2	1	2	2	
延べ業務時間	時間	575	600	700	920	700	700	700	700	
(B)人件費計	千円	0	2,373	2,788	3,626	2,788	2,788	2,788	2,788	
トータルコスト(A)+(B)	千円	0	2,373	2,788	3,626	2,788	2,788	2,788	2,788	

事務事業名	合志農業活カプロジェクト実施事業	所属部	産業振興部	所属課	商工振興課
-------	------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は30年度の事後評価、ただし複数年度事業は30年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①30年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 事業全体としては、おおむね達成する見込み。 発電は順調で深刻なトラブルもなく、売電収入・配当金ともにほぼ予定額になる見込み。 還元事業の実施については、7事業の実施を計画しているが、1事業については現在、執行未定の状況である。仮に、本年度に未執行になったとしても、その金額は平成31年度の還元事業に上乗せして実施する予定である。
	②31年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 一部の設備に不具合が判明したが、復旧可能なものである。そのため、天候には左右されるものの30年度同様の発電量が想定される。また、還元事業も当初の予定通り実施できる見込みのため、目標は達成できる見込み。
有効性評価	③成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 攻めの農業への還元の際して、還元事業により深く関与することにより成果向上が見込まれる。 今年度から、自然電力・熊本製粉・市の3者が集う「事務連絡会」を定期的に開催。各事業への関与を深めることができる仕組みにした。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 民間会社が農業への還元を行なうスキームであるため、あえて市が財源を拠出して事業を行なう必要はない。 ただし、市も出資する会社であるため、市の農業施策等も反映した還元を行なう計画である。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 平成26年度以降は担当職員人件費のみになっている。
	⑥人件費 (延べ業務時間) の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要最低限の人件費としている。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 農水省助成事業を受ける条件である売電収入の5%の還元先 [守りの農業] については、公平性の観点から多くの農業者が加入する土地改良区への助成を行なっているため公平・公正である。
	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 民間会社が行なう事業である。

3 評価結果の総括 (CHECK)

想定に近い発電量であり、還元のための原資が確保でき、還元事業を開始することができた。
 平成30年度は、事務協議を定期的に開催し、還元事業の効果を高めることができる仕組みにした。関係者がより密に連携を図っていくことで、高い効果が得られるように進めていく。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策																						